

お釈迦さまについてはいろいろな逸話がありますが、実際にはどのように教えを説かれていたのでしょうか？

仏教を開かれた方ですので、ご自分が人々に伝えたいことをしっかり持っておられたことは間違いありませんが、それを決して他人に押し付けることはなかったのです。

他人と論争をして自分の意見を押し付けて勝ったとしても、そこには不快感が残るのではないのでしょうか？

自分の好きな物を食べようとした時に、他の人から「それはまずいからこっちを食べろ」と言われても余計なお世話ですよ？

同じように、信じているものがある人に、「それは間違っているから、こちらを信じろ」と言っても納得出来るものではありません。

お釈迦さまは、相手の意見や立場を十分に理解して、その人に合った導きをさせていました。

その教えの中心にあったのが、ものごとを正しく理解する「智慧」と、相手の事を自分の事と同じように考える「慈悲の心」です。

お釈迦さまは、世の中のすべては縁によってつながり合っていると説いています。相手を傷つけてしまう事は、結局自分自身を傷つけてしまう事になるのです。だから、自分と同じように、世の中のすべての存在は大切なものなのです。

お釈迦さまの時代から、現在も世界では戦争や争いごとが絶えません。

お釈迦さまのように、相手の事を考えて決して押し付けるようなことはせずに、それぞれの立場を認め合うことが出来れば、争いごとが起こるはずはないのです。

世界にはさまざまな宗教、文化や思想が存在します。それらは、それぞれの風土や環境の中で育まれてきたものです。

2500年以上前のお釈迦さまの教えが、仏教として現在まで脈々と伝承されていることは、その人の立場になって説かれ、さまざまな文化や思想を包み込んできたからこそなのです。